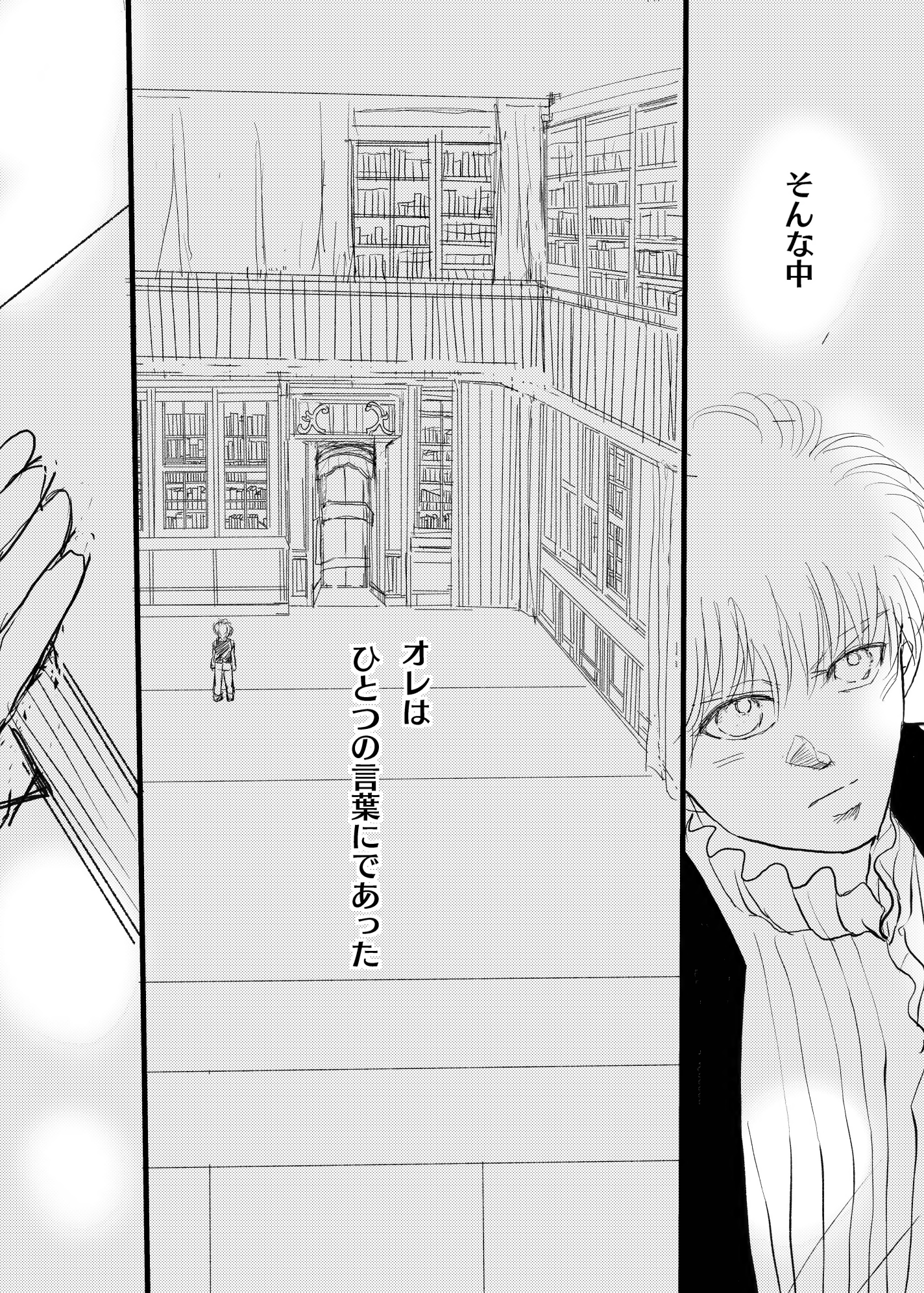
アバンの館にて
オレは学んだ事がある

貴族かつ学者家系のためか
多岐にわたる分野だった

礼儀作法だけでなく
文法，修辞，論理，数学，音楽，幾何，天文
歴史　神学　と続いた

そんな中
オレは
ひとつの言葉にであった

悲しみの聖母
美しい挿絵
女性の姿と共にあった言葉
悲しみを纏う姿に
何か心惹かれたのか
オレは問うた
ドリファン
聖母とはなんだ？
彼は言った
審判者に
慈悲をもってとりなしを
行うものです
この世で
困難の中にある者が
天国に到達するまで
愛情深く見守る存在と
言われております
神には届かなくとも
聖母様に取り次ぎを願えば、
救われる。
崇敬の対象
そのような民間信仰です

聖母
そんなものが…
実在する筈はない！
いるならば
何故父は死んだんだ
慈悲などあるか！
おれの
おれの目の前にいたのは
仇しかいなかったのに

おれの
この
苦しみを
誰も知らない
仇を討つだけが
救う方法だ!
そう思いこんでいた
お前が
現れるまでは…
あなたは…
そんな弱い人じゃない
本当は、分かっているんでしょう?
そうやって
オレの為に泣き

オレを癒した
そして
敵じゃない
同じアバンの使徒だと言い
仲間だと言って
オレとアバンの間をとりなしたんだ
聖母はここにいたのだ
そうそのときはそうだと思ったのだ

聖母への想いは「崇敬」
そう聞いていた
だが
氷魔塔で死を目の前にしたお前を救った時
オレの目の前にいたのは

ただオレの無事を喜び
涙を流す
女性だった
その時の
胸の高鳴りは
崇敬でも
崇拝でも
なかった

そして
ここはオレに任せて
中央塔にむかえ
向かうべき
使命があるにも関わらず
でも…
この場に
留まりたいと
口籠る

心半ばに
弟弟子に連れられて
いく姿
ちょっと！
なにするのよ
微笑ましく
思いながらも
振り返る姿が
瞳が
心に残った
この気持ちの
名前は？
この後の
戦いの中で
答えが
見つかるだろうか

その答えは
次の旅にあった